

第 35 回 全国大会 研究ワークショップ 開催案内

日時：2020 年 12 月 5 日（土）10:00~12:00 会場：オンライン開催

研究ワークショップ①

研究発表

スマート・ツーリズムにみる観光の変容

代表者：杜 国慶（立教大学）

スマート・ツーリズムとは、IT 機器を介して旅行者に観光目的地や飲食、交通、予約、旅行案内などの観光関連情報やサービスを提供する総合的なアプローチで、ICT を融合した次世代観光形態とも言われるほど注目されている。情報伝達のリアルタイム化と観光情報の個人化は観光者と観光地域との関係、観光者の行動、観光者の情報コミュニティ形成、観光者の役割など様々な側面に影響を及ぼし、変化させた。さらに、ICT 技術の活用は旅行者の行動に便宜を提供するだけでなく、歴史文化遺産の歴史再現や国立公園の保護に重要な役割を果たし、観光に新たな資源と可能性を創出している。本研究ワークショップはこのような観光実態の変化に注目し、研究発表と質疑応答を通してスマート・ツーリズムという枠組で、ICT の革新的な発達による観光の変容について意見交換を行いたい。（参加者数上限 60 人）

申し込み方法：参加申込フォーム <https://forms.gle/MRGJBWoAd6d4jqty9> に記入すること（参加者数上限 60 人）

問い合わせ先：澁谷和樹 kshibuya@rikkyo.ac.jp

研究ワークショップ②

研究発表

ディスカッション

コロナ時代の夜間経済とナイトライフ観光

－ 現況把握とポストコロナに向けた産学官連携の探索的意見交換 －

代表者：池田 真利子（筑波大学）

オンライン型の本研究ワークショップ（WS）では、コロナ禍において困難な状況に直面した夜間経済とナイトライフ観光に関して、産学官が垣根を越えて連携し情報共有や意見交換を行うことを目的とする。我が国で 2010 年代半ば以降に注目されてきた「夜間経済（Night-time Economies）」は、東京都や観光庁による政策的後押しもあり、東京五輪と大阪万博を機にさらにその経済的潜在性に注目が集まるかのように思えた。しかし、COVID19 により飲食業主体の「夜の街」は極めて困難な状況におかれ、また夜間経済において重要なコンテンツである音楽／音を扱った施設はポストコロナの状況を踏まえて運営方法において変革を求められている。

本 WS では、まず簡単にこれまでの夜間経済を巡る政策や状況を紹介するとともに、都市／地方や日本／海外、サマーリゾート／ウィンターリゾートの事例報告を踏まえつつ、コロナ時代の夜間経済とナイトライフ観光に関する情報共有を行い、今、求められる研究に関して意見交換を行いたい。なお、本研究 WS は、日本観光研究学会分科会「ナイトライフ観光とナイトタイムエコノミーに関する研究」（2018～2019 年度）のメンバーに加えて、民間企業 2 社（株式会社ナビタイムジャパン・株式会社 JTB コンサルティング）の 3 名が参加予定である。

なお、現時点で 5 件の口頭発表（総論・海外事例 2 件・国内事例 2 件）とその後のディスカッション（全体で約 2 時間程度）を予定している。

申し込み方法：メールでの事前登録を希望（御名前・所属・メールアドレスを明記のこと）

問い合わせ先：marikoi@heritage.tsukuba.ac.jp（代表者）

観光経営のパラダイム・シフト**～VUCA の時代における未来志向の学びについて～**

代表者：藪下 保弘（新潟経営大学）

昨今、不確実で予測困難な社会環境を取り巻く状況を意味する用語として「VUCA」が頻用されています。当該用語は、Volatility（変動性）、Uncertainty（不確実性）、Complexity（複雑性）、Ambiguity（曖昧性）の頭文字を組み合わせたアルファベット略語です。周知のとおり、1989年のマルタ会談をもって事実上の東西冷戦が終結しました。VUCAは、それまでの世界の二極構造から転じて複雑かつ混沌とした時代の到来を表現するために用いられた軍事用語が出自とされています。近時は、2016年の世界経済フォーラム（ダボス会議）をはじめ、多くの国際会議で取り上げられるほど耳目を集めるキーワードになっています。

2000年以降の時事に目を向ければ、「9.11（米同時多発テロ）」、「3.11（東日本大震災／原発事故）」、「SARS／MERS」など社会の秩序や機能が麻痺する局面に遭遇する機会が少なくありません。加えて、Society5.0／Industry4.0に代表される情報コミュニケーションの技術が進展する社会にあって、コロナ禍がもたらした影響は堪えがたい不幸の一方で生活・産業・医療・技術などのイノベーション創出に拍車をかける形になっています。まさにわれわれは、未来の予測が困難な時代の渦中に立っているのです。当然に観光教育、経営教育に関してもこのパラダイム・シフトを真正面からとらえ、学校教育に反映する工夫が求められます。

こうした問題意識を背景として、広く議論を公開して学会をとおした情報発信と意見交流の場を設けたく本ワークショップを企画しました。

具体的には、次の個別論点に携わるメンバーの研究報告ならびに現場実務の現状を発表して多様な観点からテーマに即した議論を深めます。

[プログラム]

---報告および議論---

- ・新学習指導要領、探究学習、アクティブ・ラーニング
- ・Society5.0/Industry4.0、AI、IoT
- ・被災地復興
- ・観光政策
- ・知の発見、論理的思考、デザイン思考

申し込み方法：電子メールにて「氏名」「フリガナ」「所属」「会員と非会員の別」を記してお申込みください

問い合わせ先：新潟経営大学観光経営学部 講師 落合 純 e-mail j-ochiai@duck.niigataum.ac.jp